

学力向上フロンティアスクール用中間報告書

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要（平成15年度4月現在）

学校名	西条市立東中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	4	4	1	13	24
生徒数	138	142	152	4	436	

研究の概要

1. 研究主題

開かれた特色ある学校づくりを通じた「生きる力」を育成する教育活動の創造

2. 研究の内容と方法

(1) 実施学年・教科

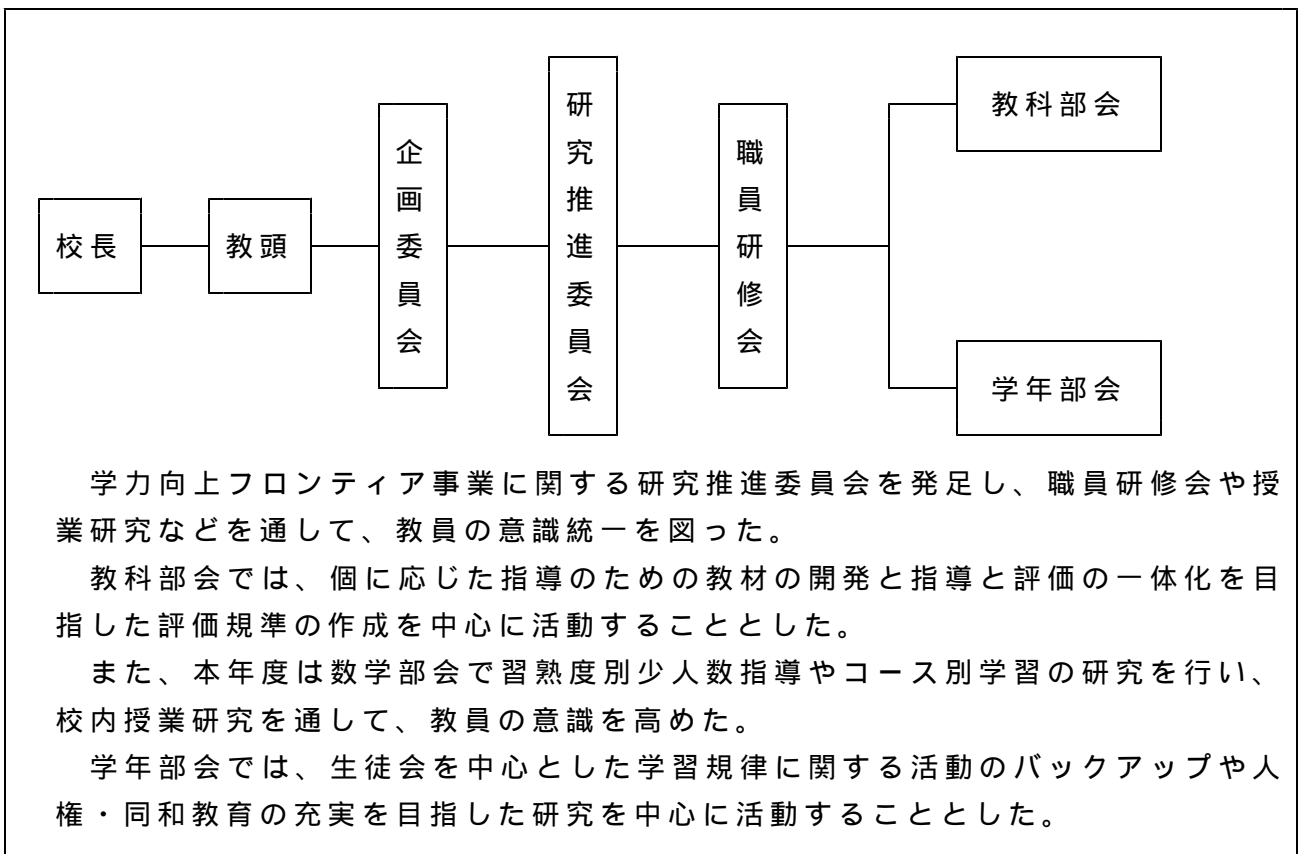
- ・ 1年生・数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科、学年であるため。
- ・ 3年生・数学  
生徒の基礎・基本の定着状況に差が出やすい教科、学年であるため。

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な習得を目指す学習指導の工夫」</p> <p>研究の見通し 「生きる力」の基盤を基礎・基本と考え、その基礎・基本を「人間レベル」と「学習レベル」の二面性からとらえて、「人間レベル」では、人権教育や生徒指導、「学習レベル」では、少人数指導やコース別学習などを中心に、まずは基礎・基本の確実な習得を目指したい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 学習規律の見直しと徹底 イ 習熟度別少人数指導によるきめの細かい指導方法・指導体制の工夫 ウ 年間指導計画に位置づけたコース別学習の研究 エ 指導と評価の一体化を目指した評価規準の作成</p>
--------	---

平成 16 年 度	<p>テーマ 「基礎・基本の確実な習得を目指す学習指導の工夫」 研究の見通し</p> <p>「生きる力」の基盤を基礎・基本と考え、その基礎・基本を「人間レベル」と「学習レベル」の二面性からとらえて、「人間レベル」では、人権教育や生徒指導、「学習レベル」では、少人数指導やコース別学習などを中心に基礎・基本の一層の定着を目指したい。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>ア 学習規律の徹底</p> <p>イ 習熟度別少人数指導によるきめの細かい指導方法・指導体制の工夫</p> <p>ウ 年間指導計画に位置づけたコース別学習の研究</p> <p>エ 指導と評価の一体化を目指した評価の工夫</p> <p>オ 人権・同和教育の充実</p>
--------------------	--

### (3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

#### 1. 研究成果

##### ア 学習規律の見直しと徹底

教師が押しつけるのではなく、生徒会活動を通して、チャイム着席運動や授業前後の正しいあいさつ運動など確実に効果を上げ、全校生徒の意識が高まり、ノーチャイムデーを実現することができた。

## イ 習熟度別少人数指導によるきめの細かい指導方法・指導体制の工夫

1年生の数学の授業で、生徒の希望により、基礎コースと発展コースを設け、実施している。できるだけ、生徒の要望に応えられるようにどちらのコースも途中で変更できることとし、自分に合っていないコースを選択した生徒については教育相談を行い、変更を進めたりしている。その結果、発展コースでは学習意欲が高まっている生徒がほとんどで、基本コースではゆっくり自分のペースで学習ができるため確実に学力が伸びてきている。

## ウ 年間指導計画に位置づけたコース別学習の研究

本年度は、主に3年生の数学において研究した。特に、つまずきやすい単元である平方根や系統性が高い関数で実施した。校内授業研究でのコース別学習に関する教員の意識が高まったり、生徒の感想から「自分のペースでわかりにくかったところの復習がよくできた。」と好評を得た。

## 2. 今後の課題

(1) 習熟度別少人数指導では、コース決めやコース変更の際、友人関係等でコースを選ぶことのないように十分相談活動をする必要がある。

また、習熟度別学習は「できる・できない」という能力別学習ではなく、個々が伸びるための学習であることを生徒にも保護者にも理解を図っていかなければならない。その上で、生徒自身が自分の力を見極め、自分でコース選択できる力を高めるための手立て・指導体制も重要である。

(2) 年間指導計画を立てる上で、単元や授業のねらいによって一斉指導（集団での練り合い）と個別学習のどちらが効果的なのかをよく考え、バランスのよい計画を立てることが重要である。

(3) 習熟度別少人数指導による授業は、授業内容、テストや評価の仕方を含め、教科の教師の連携が重要なかぎとなっている。しかし、打合せの時間を確保できない場合が多く、連携の仕方にも工夫が必要である。

## 学力把握のための学校としての取組

### 1. CRTの実施

平成16年2月に全学年5教科について実施し、学年が進むにつれて、それぞれの教科で学力がどのようについたのか診断する。

### 2. 定期テストの充実

4観点の視点からの問題作成を充実させ、学力の把握をすることで、少人数指導の学習集団編成における生徒側・教師側両方の資料とする。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

研究会、説明会等の開催予定については検討中である。

---

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- |                      |              |            |    |       |
|----------------------|--------------|------------|----|-------|
| 【新規校・継続校】            | 15年度からの新規校   | 14年度からの継続校 |    |       |
| 【学校規模】               | 3学級以下        | 4～6学級      |    |       |
|                      | 7～9学級        | 10～12学級    |    |       |
|                      | 13～15学級      | 16学級以上     |    |       |
| 【指導体制】               | 少人数指導<br>その他 | T・Tによる指導   |    |       |
| 【研究教科】               | 国語           | 社会         | 数学 | 理科    |
|                      | 外国語          | 音楽         | 美術 | 技術・家庭 |
|                      | 保健体育         | その他        |    |       |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 |              | 有          | 無  |       |